

寺社に接続する道空間を対象としたまちづくりに関する研究 —朱引内に立地する「横道型」の寺社にみる「寺社情緒」の空間的波及状況—

日本大学 学生会員○新橋一士

日本大学 正会員 岡田智秀

日本大学 正会員 田島洋輔

1. 研究目的:わが国の寺社空間では、そこへ至る参道や門前といったアプローチ空間が街並みを創出することで寺社まちとしてのアイデンティティを形成してきた地域がある。しかし、長きに渡り存続してきた寺社がありながら、その地が土地の風土や歴史が感じられない没個性的なまちとされるならば、寺社境内地を特徴づける景観構成要素(以下;「寺社情緒」)を周辺空間に波及させることで、その土地の有する地域アイデンティティを向上させる手立てを一考すべきと考える。これに関して、寺社とまちとの関係を論考した既往研究には、寺社を中心とするエリアを広域に捉えて街路ネットワークの中から寺社の位置づけを明確化した出村らの研究¹⁾や、神社境内地の外側にある参道を境外参道として着目して空間的特徴を明示した岡村らの研究²⁾等がみられるが、図1に示す寺社境内地を中心としてそれに接道する周辺の道と寺社との関係について言及した研究はみられない。

そこで本研究では、江戸東京の原型が形成された江戸期に着目し、当時の観光ガイドブックとしてベストセラーとなった「江戸名所図会」のうち、図2に示す沿岸部(1~2巻)および都心周辺部(3~4巻)において寺社境内地に接続する道が描写された230件の寺社を対象として、これらの中で最も多く存在する寺社境内地に接道する道タイプを抽出するとともに、その道タイプに分類された寺社境内地を特徴づける景観構成要素である「寺社情緒」の当該道空間への波及状況を明らかにする。

2. 研究概要:上述の目的を達成するにあたり、表1に示す3段階の調査・分析プロセスを展開した。その第1段階として、上述した江戸名所図会(1~4巻)の寺社境内地に接続する道が描写された全230件の寺社を対象に、寺社境内地に接続する道タイプについて分類した結果が表2である。これより、「横道型」が230件

表1 研究概要[筆者作成]

	第1段階	第2段階	第3段階
調査目的	最も多く存在する寺社に接続する道タイプの抽出	抽出した道タイプ寺社の江戸~現在までの所在地分析	抽出した変遷タイプの現状の「寺社情緒」の波及状況
項目	文献調査	図面分析	現地調査・文献調査
調査期間	2017年7月3日(月)~2018年1月30日(火)	2017年12月4日(月)~2018年1月30日(火)	2018年1月4日(木)~1月6日(土)(全3日間)
調査対象	江戸名所図会1~4巻 ³⁾ に描写された全230件(調査範囲:図2)	朱引内の「横道型」(全43件)の寺社の江戸明治平成の地図 ⁴⁾	江戸期と境内地の所在地・鳥居の位置が不変の寺社18件
調査内容	・図1に示す寺社境内地に接続する道のタイプ分類 ・寺社境内地の立地分類(朱引内外)	・江戸・明治・平成の寺社境内地の所在地および鳥居の変遷	・「寺社情緒」の波及状況 ・現地空間における景観計画・事業計画 ^{5)~10)} との関わり

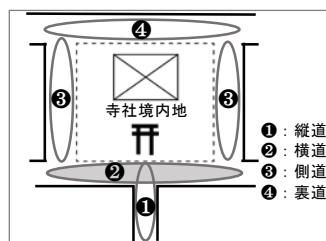


図1 本研究で使用する「道」の名称[筆者作成]

表2 寺社に接続する道タイプの件数[筆者作成]

道タイプ	件数	道タイプ	件数
①縦道型	15	①+②横道・縦道型	26
②横道型	78	①+③縦道・側道型	18
③側道型	3	①+④縦道・裏道型	3
④裏道型	0	②+③横道・側道型	55
①+②+③	11	②+④横道・裏道型	7
①+②+④	1	①+②+③+④	5
①+③+④	6	合計	230
②+③+④	2		

表3 横道型寺社の立地別の件数[筆者作成]

道タイプ	件数		合計件数
	朱引内	朱引外	
②横道型	43	35	78

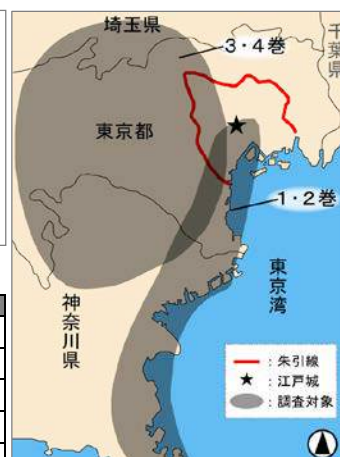


図2 江戸名所図会の調査対象範囲[筆者作成]

表4 朱引内の横道型寺社の所在地・鳥居のタイプ別の件数[筆者作成]

寺社境内地の所在地・鳥居のタイプ	件数
江戸期と所在地および鳥居の位置が不変の寺社	18
江戸期と所在地同じで、鳥居の位置が変化した寺社	10
江戸期と所在地が変化した寺社	13
不明	2
寺社の合計	43

中78件と最も多かつたため、この78件に着目し、現在の都心部周辺に相当する「朱引内※」と郊外に相当する「朱引外」の別に、「横道型」の該当数を示したものが表3である。これより、「朱引内」に立地する「横道型」の寺社が78件中43件と最も多いことを捉えた。

そこで、この43件について、第2段階として、江戸期から現在に至るまで、長きに渡り同一地点に存続し続けてきた寺社を捉えるために、寺社所在地および鳥居の位置が江戸期から現在まで不変の寺社を調査した結果が表4である。これより43件中18件が抽出できたため、第3段階として、それら18件の寺社を対象に、

(1) 寺社境内地に接続する横道空間への「寺社情緒」の波及状況、(2) 寺社境内地に接続する横道空間に対する景観計画の有無と反映状況の2つに着眼して現地調査と文献調査を実施した結果が表5である。以降では、この表5をもとに考察を進める。

3. 結果および考察:上述の第3段階調査の結果、表5よ

図3 青松寺³⁾(現・港区愛宕)

キーワード 江戸期 江戸名所図会 横道型 朱引内 地域アイデンティティ 寺社情緒

連絡先 〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台1-8-14 日本大学理工学部まちづくり工学科 岡田研究室 TEL03-3259-0484

り横道空間に「寺社情緒」の波及が見られたものは「青松寺(図3)」の1件のみであった。これは、港区景観計画(平成27年度改定)⁵⁾において、「寺社が多く立地する地域では、歴史的・文化的な面影や雰囲気との調和に配慮する」という寺社境内地との調和や活用方策が示されている。これを受けるように、愛宕グリーンヒルズ再開発の事業計画のコンセプトとして「青松寺が守り続けてきた“杜”を舞台とし、愛宕山の自然・伝統・文化との融合を目指す」ことが明記されている(表6)。具体的には、青松寺の伽藍を挟むように整備された「MORIタワー(事務所棟)」および「フォレストタワー(住宅棟)」の外構空間において、「寺社情緒」をつくりだす既存の樹木や斜面地を保全しながらの園路整備(図4:写真1)が行われている。また、「横道型」の横道部分に対応する寺社前面道路では「青松寺」境内地に生育するスダジイやタブノキなどの「在来樹種」を活用した並木道整備(図4:写真2)を行うことにより、再開発地区内において新規建築物と「青松寺」を視覚的に一体化させ、景観計画の方針を実現させている。このように、「寺社情緒」を寺社境内地に接続する道に対して波及させることで、当該地域ならではの「寺社情緒」を活用した景観形成に努めている実態を捉えた。他方、景観計画に寺社境内地との調和や活用方策が示されていた7件中6件の寺社は、景観計画の内容が現地空間に具現化されていない現状も捉えられた。これらより、江戸期から400年以上に渡り地域に根差してきた寺社を有する大部分の地域において「寺社情緒」という「土地の記憶」がまちづくりに活用されていない実態が明らかとなった。

4. まとめ以上より、寺社境内地に接続する伝統的な横道空間において「寺社情緒」の波及がみられた寺社は、朱引内に立地する横道型寺社18件のうち「青松寺」の1件のみであった。しかし、こうした横道型寺社には江戸期よりおよそ400年間にわたり、その地域

に根差してきた「土地の記憶」が存在しよう。したがって、当該地域の景観形成にあたっては、「土地の記憶」の見える化を行う手立てのひとつとして、当該寺社の「寺社情緒」の魅力を寺社境内地に接続する横道という伝統的空間に波及させ、その土地の地域アイデンティティを向上させていく取り組みが強く望まれる。

表6 愛宕グリーンヒルズの施設概要・事業コンセプトなど【参考文献^{7),8)}をもとに筆者作成】

施設概要	事業コンセプト	外構のデザイン方針
【事業主】 森ビル	青松寺が守り続けてきた“杜”を舞台に、職住近接の思想を具現化する都市空間。愛宕山の自然、伝統、文化と融合するオフィスと住宅のツインターは荘厳な気配を漂わせる青松寺の伽藍を挟む形で配置され、古きものと新しきものの美意識を共存させた東京の新しい景観を創造。	【テーマ】 オープンベースの連続性の創出。愛宕山の既存の緑の保全と活用(図4)
【所在地】 東京都港区愛宕		【地形の保全】 斜面緑地の改変を最小限に抑えるため、橋梁型式の園路築造を実施。
【敷地面積】 38,470 m ²		【既存緑の活用】 歴史ある“杜”の復元を目的に在来樹種(スダジイ・タブノキ等)の実生苗を活用し、緑を基調とした一体的空間を創造する。
【建築設計】 森ビル		
【外構設計】 愛植物設計事務所		
【建築用途】 A地区:事務所、店舗、寺院、工場等 B地区:住宅、店舗、寺院		
【竣工年】 2001年		

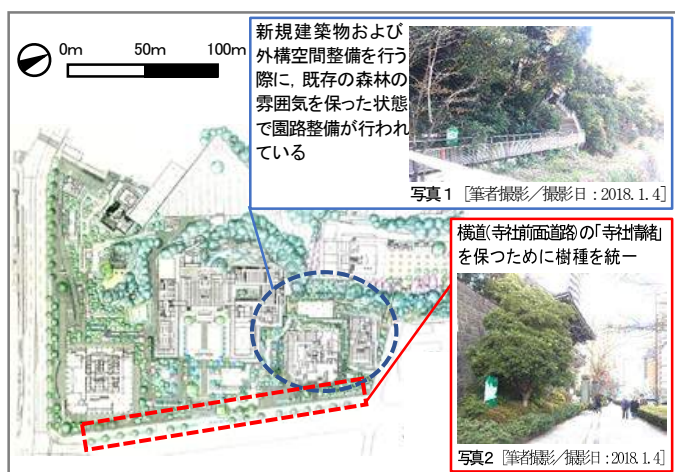


図4 愛宕グリーンヒルズの全体平面⁸⁾

補注:※朱引内:江戸幕府が江戸の範囲を示すために定めた朱引線という境界線があり、その内側にあたる現在の山手線周辺および隅田川東岸(墨田区・江東区)を合わせた範囲を示す。
参考文献:1) 出村嘉史・川崎雅史:「近世の祇園社の景観とその周囲との接続に関する研究」, pp.393~398, 土木計画学研究論文集, Vol.21, 2004/2) 岡村祐・北沢猛・西村幸夫:「境外参道の空間特性に関する研究 東京都心部をケーススタディとして」, pp.823~828, 日本都市計画学会都市計画論文集, No.40, 2005/3) 市古夏生・鈴木健一:「新訂 江戸名所図会1~4」, 筑摩書房, 1996/4) エービーピーカンパニー:「江戸明治東京重ね地図」, CD-ROM, 丸善, 2009.4/5) 港区HP, https://www.city.minato.tokyo.jp/sougoukeikaku/kankyo-machi/toshikekaku/kekaku/kekan/documents/keikankeikaku_all.pdf (最終閲覧日:2018.1.30) /6) 東京都都市整備局, http://www.toshiseibi.metro.tokyo.jp/seisaku/shinagawa/topi045_5.pdf (最終閲覧日:2018.1.30) /7) 森ビルHP, <https://www.mori.co.jp/projects/atago/background.html#01> (最終閲覧日:2018.1.30) /8) 愛植物設計事務所HP, <http://www.ai-shokubutsu.co.jp/atago> (最終閲覧日:2018.1.30) /9) 日建アーキテクチャ:「タワーシニエー」, pp.264~269, 日建P社, 2013.10/10) 文京区HP, http://www.city.bunkyo.lg.jp/var/rev/0138/8622/keikankeikaku_zenpen.pdf (最終閲覧日:2018.1.30) /11) 新宿区HP, <http://www.city.shinjuku.lg.jp/content/0001717174.pdf> (最終閲覧日:2018.1.30) /12) 豊島区HP, http://e-book.bun.jp/toshima_keikan/SWF_Window.html (最終閲覧日:2018.1.30)

表5 寺社所在地および鳥居の位置が江戸期から現在まで不変の寺社と景観計画との関わり【筆者作成】

	寺社名	現所在地	立地	景観計画		
				有・無	景観計画名	記載内容
横道型	愛宕山権現社（現：愛宕神社）	港区愛宕 1 丁目	朱引内	○ ⁵⁾	港区景観計画 平成 27 年度（2015 年度）改定	寺社が多く立地する地域では、歴史的・文化的な面影や雰囲気との調和に配慮する
	伊雑大神宮（現：八丁堀天祖神社）	中央区八丁堀 2 丁目		×	-	-
	新川大神宮	中央区新川 1 丁目		×	-	-
	三田八幡宮（現：御田八幡神社）	港区三田 3 丁目		○ ⁶⁾	まちづくりガイドライン 地域全体編 東京都都市整備局	記述なし
	青松寺	港区愛宕 2 丁目		○ ⁵⁾	港区景観計画 平成 27 年度（2015 年度）改定	寺社が多く立地する地域では、歴史的・文化的な面影や雰囲気との調和に配慮する
	魚藍観音寺	港区三田 4 丁目		×	-	-
	二本榎正覚院（現：正覚寺）	港区高輪 3 丁目		×	-	-
	泰平観音堂（現：梅窓院）	港区南青山 2 丁目		×	-	-
	海蔵寺	港区北青山 2 丁目		×	-	-
	白金高野寺（現：高野山東京別院）	港区高輪 3 丁目		○ ⁶⁾	まちづくりガイドライン 地域全体編 東京都都市整備局	記述なし
	神明宮（現：天祖神社）	新宿区早稲田鶴巻町		×	-	-
	本松寺	新宿区喜久井町		×	-	-
	護国寺	文京区大塚 5 丁目		○ ¹⁰⁾	文京区景観計画	歴史・文化的資産を生かし、周辺建築物との調和を図る
	鎧明神祠（現：鎧神社）	新宿区北新宿 3 丁目		○ ¹¹⁾	新宿区景観形成ガイドライン	寺社の落ち着いた雰囲気と調和した景観の形成を図る
	大塚本伝寺	文京区大塚 4 丁目		○ ¹⁰⁾	文京区景観計画	歴史・文化的資産を生かし、周辺建築物との調和を図る
	月桂寺	新宿区河田町		×	-	-
	金乗院・観音堂	豊島区高田 2 丁目		○ ¹²⁾	豊島区景観計画	地域の資源として、次世代に受け継ぎ、歴史を感じられる景観を形成
	氷川明神社（現：高田氷川神社）	豊島区高田 2 丁目		○ ¹²⁾	豊島区景観計画	地域の資源として、次世代に受け継ぎ、歴史を感じられる景観を形成
合計件数	18 件	-		○：9 件	7 件	